

理工学部同樹会報

第 18 号

発行日 平成30年 2 月23日
発行者 〒036-8561 弘前市文京町 3
理工学部同樹会 (理工学部内)
題 字 同樹会長 千葉 信行
印刷所 (株) 笹 軽 印 刷

社会に夢と感動を提供



(昭和六十一年理学部化学科卒業)

三 戸 真 也

同樹会会報第十八号発行にあたり、お慶び申し上げます。

この度、高校時代の恩師であり、大学の先輩でもある山上佳男先生（同樹会副会長）から本会報への寄稿のご依頼を受け、大変光栄なことではありませんが、私では役不足ではないかと恐縮している次第です。

私は一九八二年理学部化学科に入学し、研究室は伊藤正英先生のご指導のもと、有機化学研究室に所属しました。在学当時はお世辞にも優秀な学生とは言えませんが、昼夜を問わず共に過ごした研究室仲間との日々は、今も忘れられない思い出になっています。

卒業後、勤務地は埼玉県大宮市（現さいたま市）で、地元の青森県に工場があるレンズメーカーのタムロンに勤務しました。在学時代の研究内容とは直接結びつきはありませんでした

が、当時、樹脂材料を用いたレンズの開発に力を入れ始め、化学系卒業の学生の入社を推進していた時期でした。

その後、縁あって一九九〇年、大阪府門真市の松下電器産業（現パナソニック）の本社研究所に勤務することになりました。以来、同社では一貫して、アミューズメント、ミュージアム、大ホールなどで使用されるハイエンドカテゴリ用途のプロジェクトの光学システム開発に携わっています。

社会人になってから光学技術を学び、学生時代は決して得意ではなかった物理系の世界でよくこれまで一線でやれたものだと、今になって思えば改めて不思議に感じている次第です。

プロジェクトは今でこそプロジェクションマッピングなど、華やかで脚光を浴びる存在となり認知度も高くなってきまし

たが、開発に携わった当時は、業界での当社シェアも低かったうえ、コンシューマー向けの家電製品が主力であった当社では、社内でも認知度が低く、加えて利益も出ていない事業でしたので、いつ無くなってもおかしくない状態でした。

そんな中、競合他社と同じことをしても勝てないので、思い切った発想で、コンパクトで低コストを特長とする独自設計の光学系を提案した商品として二〇〇二年に発売しました。幸い、このコンセプトで徐々にシェアを上げていき、事業としても軌道に乗り始めました。私自身もこの時期に事業部の技術部門に異動して現在に至っています。いつの間にかこのカテゴリリーではワールドワイドシェアNo. 1に昇りつめることができ、今では十年以上、No. 1の座を継続しています。

その後、個人的には二〇一四年に発売した世界初の技術を搭載した超短焦点レンズという商品が社内外で認められ、二〇一五年に社内の斬新なコンセプトや技術を表彰する「Wonder賞」という賞を、翌二〇一六年には、社外から「電

気科学奨励賞」を受賞させていただきました。また、昨年はこれまでの技術貢献が認められ、パナソニック社内の技術賞として最も権威がある「中尾記念賞」という賞もいただくことができました、これまでの取り組みが報われたようで感慨深いものがありました。

プロジェクトは生活必需品の家電製品ではありませんが、世の中に夢と感動を与えて文化の発展に貢献できる製品であると確信しています。当社はオリビックのオフィシャルスポンサーでもあるので、会場では多くのプロジェクトを使用しているただいていることや、大きなテーマパークなどで採用されていることも、この事業に携わっている社員の大きなモチベーションに繋がっています。

私は出身も地元の青森市です。現在所属している事業部は、弘前大学の卒業生、青森県出身とも私一人だけですが、私自身は常に青森県出身、弘前大学卒業ということに今でも誇りを持って、残りの会社生活のなかで社会の発展に少しでも貢献したく考えています。

定年退職教員

平成二十九年度末をもって、数物科学科 加藤博雄教授、地球環境防災学科 柴正敏教授の二名の先生方がご退職されました。ご退職の先生方におかれましては、永年にわたる教育研究活動、及び同樹会に対するご尽力に対し厚く御礼を申し上げますとともに、今後益々のご活躍と同樹会への変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。なお、先生方から本学部における様々な思い出や出来事に纏わるお言葉を頂戴しました。在学時代にお世話になった先生のお顔、お言葉に、当時を懐かしみながらお読み頂ければ幸いです。

地域とともに

理工学研究科

(物理科学科/数物科学科)

加藤 博雄



弘前に来てはや二十年、私の三十六年間の教員生活も終わりを迎えるようとしています。つく

ばの旧文部省直轄研究所で十六年、弘前大学で二十年と勤めてきた訳ですが、今振り返れば例え苦しくろうとも楽しい日々でした。特に院生以上の方としか触れ合えなかった研究所時代と異なり、弘前での日々、原石とも言える学生の方々との交流は、得難く新鮮で私の喜びでもありました。まがりなりにも教員ですの知識を与え学問の理解きはしましたが、それ以上に彼等から教えられることは多かったように思います。そんな中で着任当初、ちよつと考え込んでしまったことがあります。それは就職対応です。弘前大学の学生は地元志向が強く、離れても仙台までの北東北エリアということでした。しかし、理工系人材に対する青森、北海道のキャパシティは小さく、自ずと首都圏を対象に加えねばなりません。また、キャリアアップ、スキルアップの大学院への進学についても消極的でした。各地を廻って来た私としては是非とも様々な経験を積んで欲しいとの想いから、討って出ることを薦めたかったのですが・・・。

しかし学生の素直な気持ち、これ以上親に負担をかけたくない、親孝行したいとの言葉を聞くと、良い意味での地域性を感じざるを得ませんでした。時を経た現在、地域に貢献出来る人材の要請が大学に課せられた使命の一つです。これは地域がおかれた状況に合わせた発展を考える人々と言っても良いでしょう。考えるにあたっては様々な判断が伴います。判断には元となる様々な比較対象情報が必要です。最近のネット社会では得たい情報は即座に得られますし、地(知)の拠点、弘前大学ではより密着した情報や対処法等を教えています。しかし人は見たいと思ったもののみを見、聞きたいと思ったことのみを聞くもので、偏りが生じるものです。物事には必ず得失、長短があり、両者を等しく検討することが重要です。そういう点では環境を変えた体験、否が応でも見聞きする経験が必要なのでしょう。例えば、東京、憧れを持って見られることが多い街ですが、たまに訪れる人にとっては生活感の無い異常な街です。しかし一歩奥に踏み込むと昔ながらの街並みや人々の生活があります。私がよく電気部品を仕入れに行く秋葉原でも、大通りと並行する通りを何本か抜けていくと「○○銀座」といった昭和の風情を漂わせたエリアがありますよ。理解するにはそ

学生と大学院

理工学研究科

(地球環境学科/地球環境防災学科)

柴 正敏



れなりに時間を掛け、視点を変えた経験が必要かと思えます。国際化ということで留学を大いに奨励する大学ですが、首都圏派遣事業なんていうのもあつて良いかもしれません。そんな思いを残して弘前を去る私ですが、即戦力だけを期待するのではなく、その先を見据えた判断が出来人を育て増やしていく、そんな大学や地域であつて欲しいと心から願っています。

ば、ここ十年くらい、大学の教員になった卒業生は少なくなつたと思います。現在、学生の志望が多い進路が公務員です。夜は大学生協主催の公務員講座を履修しています。地球環境学科の学生の三〇四割が毎年公務員になっています。その他の三〇四割が大学院進学です。この中には数人、大学教員志望者が含まれていると思われます。大学に入学すると、教員から本学大学院・理工学研究科に進学するように勧められ、そのようになれるように準備している。一方、他大学の大学院を希望する学生は少数人数(あるいは一人)で勉強をはじめ、一人で勉強するのがいかに大変なことかと実感することになります。そのような時、教員が相談に乗ってくれることがいかにありがたいものかと実感することになる。自分はそのような存在であつたか否かの自問自答をおこなっている今日この頃です。



就職活動の視点からの

「必要性」論

平成二十八・二十九年度

理工学部就職対策委員会委員長

榊 真

一般に「必要性がある」とことと「必要性が分かる」とこの間にはギャップがあります。必要性がはつきりするまで待つていたら仕事でも後れを取りまじ、実際それでは間に合わないはずで、時間と場所を限定すれば、要・不要は割り切り易くなると思いますが、自分も人も社会も変化しますので、それでは現実的でないです。そうは言うものの、必要性が分からない段階で行動するのは心理的に抵抗があるはずで、仕事に關しても、学校教育に限定しても、非常に難しい問題を含んでいると思われまじ。そこで、ここでは主に就職活動の視点から、關連する話題をいくつか紹介したいと思ひまじ。

仕事A→B→Cとどんどんきて即戦力になるためには、水面下の仕組みの理解が不可欠であり、A、B、Cに關する表面的なノウハウだけでは先が續かないという話はよくあります。表面的な部分は見えやすく、水面下の仕組みは見えづらく、どこにポイントがありそう

です。

「守・破・離」という言葉があります。「守」は学習、「破」は連続的な改良・拡張、「離」は不連続な発見・発掘で、千利休の茶道を例にすると、弟子の古田織部は「離」まで到達していたようです。

「破」までであれば最迅速なコースがありそうですが、「離」までは遠回りしないこととどり着けないという類の話は探せばいろいろあるはずで、ある程度の年齢になると多かれ少なかれリーダーとしての働きが求められるのは、どんな仕事でもどんな社会でも共通ですが、上の方に行くことの方に直接的には知らないエリアが増えてきまじ。これは求人訪問の方からよく出てくる話題で、自分に必要なことだけでは何十年も働く上で不十分であり、組織としても困るという話で、結果として、自分にとっての要・不要は、長期の行動基準としては疑問符が付くことになりまじ。

山に登るような作業は目的意識を持ちやすいですが、下る作業は心理的に抵抗があると思ひまじ。その際、隣の山が全く見えないこともあり得まじ。上へ登るための努力や必要性は理解しやすい・されやすいですが、下る必要性は難しいです。前向きな姿勢や上昇志向が原因となり、隣の山へ行けず停滞すると

いうタイプの話はよくあります。もちろん、やみくもに下るのではなく正しい下り方が必要です。

就職活動の際の自己分析では、経験や結果そのものではなく、プロセスの分析が中心となります。採用側の趣旨は将来どのような育ち方をするかの情報を得ることです。「a0」から「al」へ至るプロセス「A→a0↓al」を身に付けることが、次のプロセス「B→b0↓bl」の修得につながるという考え方が、表面的な「al」だけなのか、プロセス「A」を身に付けた上での「al」なのかを区別するために、採用側は手を変え品を変え、いろいろな仕掛けをしてきまじ。この話は一番目の話の変形版と見ることもできまじ。

以上五つの話を紹介しましたが、どれも同じ方向性の話であり、その考え方は就職活動の時だけでなく、社会人になつてからもいつそう重要になります。

平成二十八年度の就職率は大学全体で九八・五％（過去最高）、理工学部全体では九八・八％でした。就職・進路の分布状況は表のとおりです。今後も大学・学部として学生の就職活動をしっかりとサポートしていく所存ですので、よろしくお願ひ申し上げます。

表1 平成28年度（平成29年3月）理工学部卒業生の進路集計

	数理科学科	物理科学科	物質創成化学科	地球環境学科	電子情報工学科	知能機械工学科	合計
進 業 ・ 林 業	3	18	24	20	20	27	112
農 業 ・ 林 業	0	0	0	0	0	0	0
建 設 業	0	0	1	4	1	3	9
製 造 業	1	0	4	1	7	10	23
電 気 ・ ガ ス ・ 熱 供 給 ・ 水 道 業	0	0	1	1	1	1	4
情 報 通 信 業	2	5	2	6	18	2	35
運 輸 業 ・ 郵 便 業	0	1	0	0	0	1	2
卸 ・ 小 売 業	6	1	1	2	2	0	12
金 融 ・ 保 険 業	2	2	0	0	1	3	8
不 動 産 業	1	0	0	0	0	0	1
飲 食 店 ・ 宿 泊 業	0	0	2	0	1	0	3
医 療 ・ 福 祉	1	1	0	0	0	0	2
公 務 員	8	5	1	14	3	1	32
教 員	5	0	4	1	0	0	10
そ の 他 の 産 業	3	5	3	6	6	4	27
未 就 職 ・ そ の 他	3	1	5	1	1	1	12
計	35	39	48	56	61	53	292

表2 平成28年度(平成29年3月)大学院博士前期課程修了生の進路集計

	数理学 コース	物理学 コース	物質創成 化学コース	地球環境 学コース	電子情報 工学コース	知能機械 工学コース	新エネルギー 創造工学	合計
進 学	0	2	0	0	0	1	2	5
建 設 業	0	1	0	0	0	0	0	1
製 造 業	0	5	15	1	8	23	0	52
電気・ガス・熱供給・水道業	0	1	0	0	2	0	0	3
情報通信業	1	0	0	1	6	0	0	8
運輸業・郵便業	0	0	0	0	0	0	0	0
卸売業・小売業	0	0	0	0	0	0	0	0
医療・福祉	0	0	0	0	0	0	0	0
教 員	0	0	0	0	0	0	0	0
公務 員	0	0	1	2	0	0	0	3
その他の産業	0	6	2	3	1	1	0	13
未就職・その他	0	1	3	0	0	0	0	4
計	1	16	21	7	17	25	2	89

紙上職場訪問(10)

地方公務員という仕事

札幌市保健福祉局

保険医療部保険企画課

泉 谷 貴 之

(平成十三年理学部地球科学科卒業)

同樹会会報第十八号の発行にあたり、お慶び申し上げます。

大学四年時に、研究の道に進むか、公務員の道に進むか迷い、卒業間際に公務員の道に進むことを決め、平成十三年四月に札幌市役所に就職いたしました。卒業時には指導教官であった鶴見實先生には大変お世話になりました、またご迷惑をおかけいたしました。

私が現在勤務している札幌市は十区からなる政令市ですが、採用後は豊平区で保育園入園等の児童家庭福祉の仕事を経験し、総務局で庁内の印刷・複写等の業務管理を四年半、北区で国民健康保険の滞納整理業務を六年半、そして現在の職場で二年と十七年間の公務員生活を送ってきました。

現在は国民健康保険に関する業務を行っておりますが、国民健康保険制度については近年の高齢化などの影響により加入者の低所得化や医療費の増大など

の課題が大きくなる中、国の持続可能な社会保険制度改革の一環として、持続可能で安定的な制度とするため平成三十年度より保険運営主体が市町村から都道府県に移管するという大改革が行われ、円滑に運営を移管するための準備が進められています。私が直接担当している業務は国民健康保険料に関する滞納処分業務の調整を行っております。滞納処分は、最近テレビにもたびたび取り上げられているように保険料の滞納者を相手に財産調査を行い、差押を実施し、保険料収入を確保するという重要な役割を担っています。また、最近ではインターネット公売など差押に関する手法も多様化しているため、効果的な滞納処分を推進するため日々努力をしております、その結果、札幌市の国民健康保険料の収納率について約九三%に達しています。

地方公務員の醍醐味としては異動により全く違った業務を経験することができるといえるところがあるかと思いますが、札幌市の場合には概ね三年から六年で異動となるため、今までの経験を活かしつつ、また新しい業務に携わることを楽しみにしています。

現在、韓国平昌で冬季オリンピック・パラリンピックが開催されておりますが、札幌市に

おいても二〇二六年の冬季オリンピック・パラリンピックの招致活動を推進しており、招致が成功した場合には一九七二年の冬季オリンピック以来二回目のオリンピック・パラリンピックが開催されることとなります。二〇二六年の札幌市でのオリンピック開催を実現するために同樹会の皆様の応援をいただければ大変うれしく思います。また、二〇三一年には北海道新幹線の札幌延伸が予定されており、ますます弘前と札幌の時間的距離が縮まり、交流が盛んになっていくのではないかと思います。ぜひ、札幌に観光等でお越しただければ幸いです。弘前大学出身者も多く札幌市に就職しており、力を合わせて札幌市の発展に尽力していきたいと思っています。

最後になりますが、同樹会のかますの発展と会員の皆様のかますの健康と会員の皆様の健康とを祈りつつ拙筆であります筆を終えさせていただきます。



平成二十八年度 理工学部卒業・理工学研究科修了 祝賀会

平成二十九年三月二十三日、平成二十八年度理工学部卒業・理工学研究科修了祝賀会を開催いたしました。十年前、平成十八年度の祝賀会参加者数は先生方を含め約百六十名でしたが、過去の同樹会報にも記しましたとおり参加者数は年々減少し、平成二十三年度には百名を切り、平成二十七年度には五十名となりました。その原因としては、同窓の意識を醸成することの難しさ、同樹会の存在の周知不足、学生の意識や環境の変化など、さまざま考えられましたが、有効な打開策が見いだせないまま、祝賀会の取りやめを考慮せざるを得ない状況でありました。しかし、弘前大学の学部の中で、卒業・修了に際してのパーティーを開催していない学部はなく、それでも祝賀会を取りやめた場合、のちに再開することが難しくなるだろうとの懸念もありました。そこで、平成二十八年度の祝賀会は、それまでの参加費（二千五百円、ただし同樹会入会者は無料）を見直し、同樹会として「卒業・修了生の皆さんをお祝いしよう」との想いをより鮮明化すべく、祝賀会参加者全員の参加費を無料として開催いたしました。その想いが通じたのか、約百三十名のご参加をいただき、盛大に開催することができました。この参加費の見直しについては様々なご意見、ご批判もあろうかと存じますが、これを継続できるかどうかともわかりません。ご意見をお持ちの方は、同樹会幹事にご就任いただくことも含めまして、是非ともお祝いの想いを実現するアイデアを同樹会事務局宛てにお寄せいただければ幸いです。



物理科学科



物質創成化学科



地球環境学科



電子情報工学科



知能機械工学科



新エネルギー創造工学コース



知能機械工学科

学 生 表 彰

理工学部学生、理工学研究科大学院生は、日々研究活動に努力しています。特に、学会等からの表彰を受けた学生は以下のとおりです（平成二十九年二月以降）。今後とも学生の活躍にご期待ください。

■理工学研究科博士前期課程

（物質創成化学コース）

荻原峻介（二年）
二〇一六年度色材研究発表会優秀講演賞を受賞

■理工学研究科博士前期課程

（物質創成化学コース）

斎藤達也（二年）
二〇一六年度材料技術研究協会討論会グローバルポスター賞を受賞

■理工学研究科博士前期課程

（電子情報工学コース）

古見 薫（一年）
平成二十八年度電子情報通信学会東北支部優秀学生表彰を受賞

■理工学研究科博士後期課程

Arissara Ratcha（三年）

日本化学会第九十七春季年会学生講演賞を受賞

■理工学研究科博士後期課程

アミル・ムクリズ（二年）

第三〇九回計測自動制御学会東北支部研究集会優秀発表奨励賞を受賞

■理工学部知能機械工学科

押見灯里（四年）

第六回四校学術交流会最優秀発表賞を受賞

■理工学研究科博士後期課程

シヨケイティ・パイルザ（二年）

第六回四校学術交流会優秀発表賞を受賞

■理工学研究科博士前期課程

（物質創成化学コース）

佐々木悠太（二年）
平成二十九年化学系学協会東北大会優秀ポスター賞を受賞

■理工学研究科博士後期課程

Surachai Karjanakorn（三年）

平成二十九年化学系学協会東北大会優秀ポスター賞を受賞

■理工学研究科博士後期課程

Bayu Asep（二年）

化学工学会第四十九回秋季大会優秀発表賞を受賞

■理工学研究科博士前期課程

（物質創成化学コース）

高橋孝樹（二年）
色材協会創立九十周年記念会議優秀ポスター賞を受賞

■理工学研究科博士前期課程

（知能機械工学コース）

工藤亨介（二年）
14th International Conference on Flow Dynamics Best Presentation Awardを受賞

■理工学研究科博士前期課程

（知能機械工学コース）

横田 輝（一年）
第五十五回燃焼シンポジウム炎の写真展日本燃焼学会優秀作品賞を受賞

■理工学研究科博士前期課程

（物質創成化学コース）

斉藤達也（二年）
二〇一七年度材料技術研究協会討論会口頭講演賞奨励賞を受賞

■理工学研究科博士後期課程

Amir Mukhriz Azman（一年）

Merit Award for the IFMBE-Sponsored Young Investigator Award 2017を受賞しました。

■理工学研究科博士後期課程

Surachai Karjanakorn（三年）

第五回アジアバイオマス科学会議優秀ポスター賞を受賞



「吉田基金」

TOEIC賞受賞

弘前大学同窓会では、平成十四年より国際化教育の支援を目的として、吉田豊元学長が設立された基金のもとに「吉田基金」TOEIC賞を制定しています。この賞は、TOEICの高得点者（九九〇点満点中九〇〇点以上）を対象とし、審査の上で賞状と副賞を授与するものです。

本年度、理工学部四年の安保友樹さんが見事九〇五点のスコアで授賞し、平成三十年二月二日に授与式が行われました。授与式後に安保さんから喜びの声を伺いました。

「吉田基金」

TOEIC賞を受賞して

理工学部地球環境学科四年

安 保 友 樹

このたび「吉田基金」TOEIC賞を受賞することになり、大変感慨深く感じています。入学当初に大きな目標もなかった私が、四年生の最後にこのよう

な名誉ある賞をいただき不思議な気持ちでいっぱいです。

大学院受験に必要なため、私は三年生の後期に始めてTOEICを受験しました。

ちょうどその時に「吉田基金」TOEIC賞を知り、一つの目標としてここまで勉強を続けることができました。月並みな言葉ですが、努力を継続する大切さを学びました。

今後はより実用的な英語の学習が必要になると思いますが、これまでと変わらず一生懸命努力するだけです。それが今回の受賞に報いる唯一の方法と信じています。これを新たな出発としてまた初心に戻り、精進していきたいと思っています。



右…加藤博雄 理工学研究科長
中央…安保友樹さん
左…千葉信行 同樹会長

平成28年度 弘前大学理工学部同樹会決算書

平成29年 3月31日

◆一般会計

収 入	支 出	繰 越
4,680,842	1,223,592	3,457,250

◎収入の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
繰 越 金	3,293,338	3,293,338	0	平成27年度より
会 費	1,500,000	1,320,000	△ 180,000	正会員 132人 学部 1年 (29年度入学) 74人 740,000円 〃 1年 (28年度入学) 34人 340,000円 〃 2年 2人 20,000円 〃 3年 0人 0円 〃 4年 (祝賀会時納入1人分含) 17人 170,000円 院生 1年 4人 40,000円 〃 2年 1人 10,000円 〃 後期課程 0人 0円
卒業・修了祝賀会 当日会費納入分	0	67,500	67,500	学生 0人 0円 教員等 27人 67,500円
雑 収 入	200	4	△ 196	預金利息
計	4,793,538	4,680,842	△ 112,696	

◎支出の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
弘前大学同窓会費	252,000	252,000	0	平成28年度負担金
印 刷 費	340,000	291,600	△ 48,400	会報第17号 1,500部
卒 業 ・ 修 了 祝 賀 会 費	270,000	262,914	△ 7,086	卒業・修了祝賀会経費 (195,414円) 卒業・修了祝賀会当日会費 (67,500円)
写 真 代	55,000	106,920	51,920	卒業・修了祝賀会記念写真代
通 信 ・ 運 搬 費	50,000	36,440	△ 13,560	加入案内送料 (研究科新入生) (5,390円) 未加入者へ加入案内送料 (学部4年) (26,760円) 会報送料他 (4,290円)
会 議 費	10,000	774	△ 9,226	お茶代
事 務 費	120,000	120,000	0	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消 耗 品 費	20,000	4,145	△ 15,855	プリンターラベル他
郵便振替払込料	19,500	15,280	△ 4,220	会費払込手数料 (131人)
予 備 費	3,657,038	133,519	△ 3,523,519	故、元後援会長肴倉宏太氏への弔電料 (3,520円) 事務用デスクトップパソコン (129,999円)
計	4,793,538	1,223,592	△ 3,569,946	

◆特別会計

収 入	支 出	繰 越
5,000,283	0	5,000,283

◎収入の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
繰 越 金	5,000,000	5,000,000	0	平成27年度より
雑 収 入	200	283	83	預金利息
計	5,000,200	5,000,283	83	

◎支出の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
特 別 事 業 他	0	0	0	
予 備 費	5,000,200	0	△ 5,000,200	
計	5,000,200	0	△ 5,000,200	

平成29年度 弘前大学理工学部同樹会予算書

平成29年 4月 1日

◆一般会計

◎収入の部

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
繰 越 金	3,457,250	3,293,338	163,912	平成28年度より
会 費	1,500,000	1,500,000	0	正会員 150人×@10,000円 学部 1年 110人 〃 2年 5人 〃 3年 5人 〃 4年 25人 院生 5人
卒業・修了祝賀会費	75,000	0	75,000	30人×@2,500円
雑 収 入	200	200	0	預金利息
計	5,032,450	4,793,538	238,912	

◎支出の部

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
弘前大学同窓会費	252,000	252,000	0	平成29年度負担金
印 刷 費	294,000	340,000	△ 46,000	会報第18号 1,500部×@196円
卒業・修了祝賀会費	351,000	270,000	81,000	130人×@2,700円
写 真 代	71,500	55,000	16,500	卒業・修了者祝賀会記念写真代 130人×@550円
通 信 ・ 運 搬 費	50,000	50,000	0	加入案内送料（研究科新入生） 100人×@92円 加入案内送料（学部学生4年） 250人×@120円 会報送料他（10,800円）
会 議 費	10,000	10,000	0	
事 務 費	120,000	120,000	0	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消 耗 品 費	20,000	20,000	0	プリンターラベル、ドッチファイル他
郵便振替払込料	19,500	19,500	0	会費払込手数料 150人×@130円
予 備 費	3,844,450	3,657,038	187,412	
計	5,032,450	4,793,538	238,912	

◆特別会計

◎収入の部

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
繰 越 金	5,000,283	5,000,000	283	平成28年度より
雑 収 入	300	200	100	預金利息
計	5,000,583	5,000,200	383	

◎支出の部

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
特 別 事 業 他	0	0	0	
予 備 費	5,000,583	5,000,200	383	
計	5,000,583	5,000,200	383	

編集後記

平成十七年度より幹事を務めております一條です。

一面の三戸様のご寄稿からは、弘前大学卒業に誇りを持ちながらプロジェクト開発において大きく貢献されている様子を通して、在学生への激励の想いを感じます。また、二面のご退職の先生方のご寄稿からは、在学生に対する学問教授のみならずその進路へのご支援とお心遣いが読み取れます。

三面の榊就職対策委員長のご寄稿からは、時間とともに変化する社会情勢とその中の各職業、そしてそれに対する職業選択とその後の成長など、様々な面での「必要性」を水面下まで階層的に俯瞰する視点の必要性について考えさせられます。

四面、札幌市役所の泉谷様のご寄稿からは、同樹会員の力による青森県と北海道の連携深化に大きな期待と楽しみを感じます。

五面、六面にあるとおり、平成二十八年度の祝賀会は盛会となり、在学生は勉学において活躍しております。

同樹会員ならびに同樹会運営にご協力くださる皆さまのおかげで、今後とも同樹会へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事務局

弘前大学大学院理工学研究科 一條 健 司

住所：〒036-8561

弘前市文京町三

電話：0172-39-3660

E-mail: ken@eit.hirosaki-u.ac.jp

URL: http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~doju/

役員一覧

会長 千葉 信行
副会長 山上 佳男
幹事 一條 健司
(理工学研究科研究部助教)

監査 荒木 宏孝
(弘前大学生活協同組合職員)
須藤 勝弘
(理工学研究科教育研究支援室)

名誉会長 加藤 博雄
(附属図書館事務部技術専門職員)
顧問 宮永 崇史
(理工学研究科長)

吉澤 篤
(元理工学研究科長、企画担当・副学長)
稲村 隆夫
(元理工学研究科長)

南條 宏肇
(弘前大学名誉教授)
本瀬 香
(弘前大学名誉教授)